

ECAL 2017 参加報告書

広域システム科学系 修士二年

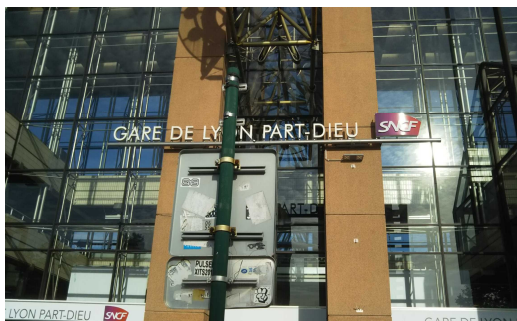
柴崎祥太（嶋田研究室）

9月4-8日にかけてフランスのクロード・ベルナール・リヨン第一大学で行われた ECAL (European Conference of Artificial Life) 2017 にて、口頭発表を行ったので参加報告書をここに記す。ECAL は人工生命に関する会議であり、二年ごとに開催される。人工生命は広い研究領域を含み、私の専門である進化ゲーム理論も含まれるので参加した。

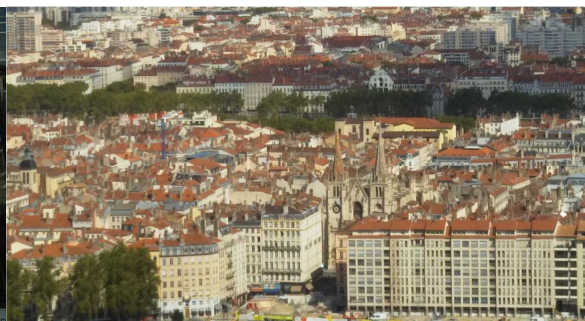
今年度の ECAL には全部で 123 本の論文が投稿され、査読を経てその内の 64 本が口頭発表として採択された。なお、28 本の論文は最初の査読の段階で採択されており、私の論文もここに含まれる。査読の詳細については[紀要](#)に記されている。採択率は 50% 前後と高く、欧州と冠していても日本人を始めとするアジア系の参加者も多いので、学生にとって敷居は高くないと思う。ただし、英語のスピードが早いこともあるので、疲労が溜まっている時や、専門が離れている場合に聞きとりにくいことがあった。

口頭発表では、一つのゲームしか存在しない場合には協力行動が常に消滅するのに対し、他の相互作用を加えると、協力行動が進化できるという結果を報告した ([Shibasaki and Shimada, 2017](#))。質疑応答では、答えがわかっているにもかかわらずに単語が出てこなくて苦労することがあった。これは、日頃英語で話す機会が少ないことに起因すると思われる。英語を話す機会を可能な限り見つけようと深く反省した。

他の発表では、同じ協力の進化を扱ってもさまざまなアプローチを採用しており、非常に興味深かった。例えば、ニューラルネットワークと遺伝的アルゴリズムを組み合わせた手法などがあり、今後の研究の参考にしようと思う。



リヨンの玄関口、Part Dieu 駅



リヨンの街並み